

2020年度 事業計画

2020年3月27日

公益財団法人交通協力会

当会は、交通事業の円滑なる運営に協力するとともに、交通に関する一般の認識と理解を深め、かつ、交通従事者の教養の向上に努めるという目的から、各種の事業に取り組んできた。2020年度においては、2022年度刊行を目指す鉄道百五十年史編纂事業の推進を中心に課題としつつ、電子図書館の運営、交通図書賞の選定、交通講演会の開催など、各種事業を着実に遂行していく。なお、新年度に向けても新型コロナウイルス感染拡大の影響が懸念されるところではあるが、国等の指示・指導を遵守しながら、円滑な業務運営の確保に努力して参る所存である。

1 交通関係の資料の調査、収集、整理、保存及び出版等による公開

(1) 鉄道百五十年史編纂事業

本事業は、来たる2022年にわが国の鉄道が創業150年目となることを視野に、国土交通省、鉄道運輸機構、JR各社、日本交通協会、日本民営鉄道協会等々の関係者の合意を踏まえて進めている。総事業費3億円を超える企画であり、当会の中心的事業と位置付けているものである。

編纂作業4年目となる2020年度は、確定された目次及び詳細な記述事項、また同時に編集委員および分担執筆者ごとの分担に従って、原稿の執筆が鋭意進められることとなる。当初の編纂工程を遵守するため、本年度末をひとつのめどとして各巻の初稿をとりまとめ、その後に控える全5巻の全体的な調整の期間を十分に確保する必要がある。また、本冊各巻同等の重要性を持つ資料編に関しても、2019年度に設置された資料編分科会を通じて、資料編の具体的構成内容を順次策定し、本冊5巻に対し付加価値をもちうる資料編の作成を進める。資料編の準備の進捗については、適宜、編集委員会等を通じて編集委員および分担執筆者に情報提供することで、本冊の内容と齟齬あるいは重複をきたすことのないように、並行的に進めていく必要がある。

なお、原稿執筆に不可欠の史資料の整理及びその閲覧体制の構築については、国鉄承継資料の劣化といった事情等により、本年度に一部がずれ込んでいる状況にあるが、専用サーバーへの収録作業を急ぎ、執筆に支障のないように進める所存である。また、資料閲覧のほか、交通事業関係者へのインタビューなど、執筆のための広範な情報収集にも対応すべく可能な限り配慮していく。

資料編を含め、執筆活動全体の進捗状況の把握のために、年度末までに、3回程度を目途に編集委員会を開催して、情報の収集・集約と執筆者に対する的確な情報提供を行っていくこととする。

本事業遂行の所要財源確保のための寄附募集については、既に鉄道関連産業分野にまで対象範囲を拡げ、全体として好意的な反応が得られているところであるが、長期間を要する大プロジェクトである点を考慮し、なお積極的に活動を継続していくこととする。

(2) 電子図書館の運営

2010年度に開設された電子図書館は、これまでに、「日本国有鉄道監査報告書」の各冊、「鉄道辞典」、また、国鉄発行の雑誌である「国有鉄道」、「国鉄線」、「交通技術」などをデジタル・データ化して収蔵し、無料で公開している。現在は、鉄道百五十年史を中心とする業務体制の中で、新規のデータ投入は控えているが、これまでに電子図書館の「入口」となる当会ホームページの改修を行うなど利便性の向上を図ってきたこともあって、利用登録者数は着実に増加していて、直近では1,400名を超える水準となっている。

(3) 戦後鉄道史資料調査研究

戦後の国鉄史資料を中心に、資料の保存、資料目録の整備、デジタル化等を行うとともに、旧運輸省あるいは国鉄のOBを対象として「オーラル・ヒストリー」の制作にも取り組んできた。現在は、鉄道百五十年史事業と競合する内容を含むものとなるが、過年度に外部と交わした取り決めに基づき始められたものの継続分については、この範疇で実施している。なお、本事業は、百五十年史事業と内容の調整をしながら進めており、また、これまでの成果物については、適宜、百五十年史編纂に活用している。

2 交通図書賞の選定・表彰

「交通図書賞」は、交通に関する優秀図書を選定、推奨することにより交通知識の普及と交通関係者の教養の向上に資するものとして、1975年度から継続しており、2020年度は第46回目となる。本年度も、「経済・経営」、「技術」、「歴史」及び「一般」の4部門で優秀図書の選定・表彰を実施する。

本事業は、当会の主催のもと、共催の形で交通新聞社に、また後援の形で交通経済研究所の協力を得て行われてきたが、2019年度からは日本交通協会から新たに協賛を得ることとなった。なお、この関係する4者間で、本事業の将来像、現在の図書選定方法の改善点などについて、継続的に検討を行っていくこととしている。

3 交通講演会の開催

2016年度以降、それまでの「シンポジウム」形式に代えて、交通講演会として開催され、「鉄道史」を統一テーマとし、「鉄道百五十年史」の編集委員に講演を依頼してきた。2019年度からは、鉄道百五十年史編集委員に加えて、交通関係の行政・経営・技術に携わって来られた諸先輩にも講演者として加わってもらうこととした。本年度もそのような考え方にそって、第5回目となる鉄道史シリーズの交通講演会を実施する。

2020年度 収支予算書(概要)

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	本 年 度
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
① 基本財産運用益	230
基本財産利息収入	230
② 特定資産運用益	1,288
特定資産利息収入	1,288
③ 寄附金	36,100
鉄道150年史基金	36,100
④ 協賛金	3,000
交通図書賞協賛金	3,000
⑤ 雑収益	1
受取利息	1
事業活動収入計	40,619
2. 事業活動支出	
① 事業費	69,440
鉄道百五十年史事業費	36,100
電子図書館	1,475
戦後鉄道史資料調査研究	1,692
交通図書賞	3,000
交通講演会	1,084
人件費	10,824
物件費	15,265
② 管理費	8,038
人 件 費	1,302
物 件 費	6,736
事業活動支出計	77,478
事業活動収支差額	△ 36,859

II 資金調達及び設備投資の見込み

- (1) 資金調達
 該当なし
- (2) 設備投資
 該当なし